

## □■バンコク国際モーターショー開幕■□

こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスの佐藤です。

3月26日、バンコク近郊のノンタブリー県で「第39回バンコク国際モーターショー」が開幕しました。来場者数はここ数年160万人以上と、東京モーターショーの倍以上にも及ぶアセアン最大級の自動車見本市です。タイのモーターショーは、新型車の展示だけでなく、その場で車の売買契約を結ぶことができるのが特徴的で、開催初日は優良顧客のみが招待される「VIPデー」が設定されていました。

タイ政府は、2011年9月から2012年末にかけて、自動車の初回購入者に物品税を払い戻す優遇措置（いわゆるファーストカー減税）を実施しました。そのため、2012年のバンコクモーターショーでは、約定台数が過去最高の5万7,058台を記録しています。しかし、ファーストカー減税の恩恵を受けた自動車購入者には5年間の保有義務が課せられたことから、翌2013年以降、モーターショーでの約定台数は毎年前年実績を下回り続けてきました。5年が経過した昨年以降、買い替え需要

### 2018年 バンコクモーターショー自動車受注台数(ブランド別)

1位	トヨタ	5,689台
2位	ホンダ	5,133台
3位	マツダ	5,021台
4位	いすゞ	3,920台
5位	メルセデス・ベンツ	2,297台



バンコクモーターショーの会場の様子

からかタイの新車市場には好転の兆しが見え始め、日本の大手自動車メーカーも久々の好景気の恩恵にあずかろうと、今年のモーターショーには大きな期待が寄せられていました。結果として、開催期間中（3月28日～4月8日）の会場での自動車受注台数は、前年比18%増の3万6,587台と、実に6年ぶりに前年を上回り、2011年の受注台数3万4,150台を若干上回るまでの回復を見せました。

3月26日のVIPデー、3月27日のメディア向けプレスデーが終了した翌28日、私も、バンコク郊外にあるコンベンションセンター「インパクト・ムアントンタニ」ま

で、このバンコクモーターショーを見学に行き参りました。今年のテーマは『Revolution in Motion（動きの革命）』ということで、タイ政府が優遇措置を取っている電気自動車（EV）や、プラグインハイブリッド車（PHV）が積極的にPRされていました。

タイでは日本車のシェアが8.5割を占めることから、トヨタ、ホンダ、マツダ、いすゞ、日産、三菱、スズキ、スバルといった日本の自動車メーカー各社が出展。ベンツやBMWなど、欧米や北米のメーカーも合わせると、30社以上が今年のショーに参加していました。各社とも、タイ国民にとってマイカーのスタンダードとも言えるピックアップトラックの展示に力を入れているのも、バンコクのモーターショーならではの光景です。日本では乗用車の生産を終

了しているいすゞのピックアップトラックは、タイで高い人気を誇ります。また、ロールスロイスやベントレー、ジャガー、マセラティ、ランドローバーといった高級車ブランドが展示しているところにも、タイの富裕層の購買力の高さが伺えました。EV車では、発電機器や充電機器などを製造販売しているエネルギー・アブソリュート社が立ち上げたタイの国内ブランド「MINE」が、3種類のコンセプトカーを初公開し注目を浴びていました。日本からも川崎市の電機自動車ベンチャー企業「FOMM」社が、4人乗りの超小型EV車『ONE』を発表し、予約の受付を行っていました。東南アジアで頻発する洪水水害にも対応するべく、水害時に水に浮いて移動できる設計になっている画期的なEV車です。この車の部品の半分は日本製とのことで、コスト削減に向け、タイ製比率を高めるよう現地にて調達先の発掘が進められています。



「タイの国民車」ピックアップトラックの展示



FOMMの小型EV車『ONE』

タイでの展開を皮切りに、今後はインドネシアやマレーシア、欧州への輸出も視野に入れているそうです。

タイでは充電スタンドのインフラが未整備で、EV車はほとんど普及していませんが、次世代自動車であるEV車はタイ政府が掲げる新経済戦略「タイランド4.0」のターゲット産業でもあることから、政府は急ピッチで対策を進めているところです。

ファーストカー減税や2016年のプミポン国王逝去に伴う買い控えの影響から長らく苦境が続いた

タイですが、今年のモーターショーの会場は昨年からの景気の回復を大きく反映するかのような盛況ぶりで、明るい気持ちになりました。



## □■インドネシアの移転価格税制■□

### インドネシアの移転価格税制

近年、多国籍企業が意図的に低税率国に多くの課税所得を移転することで、他国の税源が失われる問題(いわゆる BEPS)が取りざたされており、OECD 主導のもと BEPS プロジェクトの主要項目の 1 つとして移転価格文書作成の制度化が整備され、タイ国を含め様々な国で導入が議論されています。

インドネシアでも一足早く 2016 年度から、これが制度化され現地企業各社が対応を行ってきましたが、今なおホットな税務トピックとなります。移転価格文書は関連者(関係会社等)との取引価格が妥当であることを示すための文書となりますが、各国でこの文書の作成義務化が進む方向性であることから、複数国に拠点があり関係会社取引が相互に行われている会社は、今後グループ全体としての対応が必要となってくると考えられます。

### 移転価格文書作成義務の判定と作成文書

移転価格文書には、①マスターファイル、②ローカルファイル、③国別報告書(CbCR)があります。

#### ①マスターファイル:

グループを構成する各企業情報やサプライチェーン、グループ内の重要な契約その他連結財務諸表などのグループ概要に関する文書

#### ②ローカルファイル:

国外関連取引に関する分析、機能やリスク分析および取引の実績値が適正な価格(独立企業間価格)であることを示す数値分析等に関する文書

#### ③国別報告書(CbCR):

グループの各国別の財務数値や人員数等の活動状況、税額等に関する文書

①マスターファイル・②ローカルファイルは、関連者(グループ会社等)と取引を行っている場合で一定額以上の取引を行っている場合、又はインドネシアの法人税率(25%)よりも低税率の国と取引を行っている場合等に作成義務が発生いたします。

また③国別報告書は、本社がインドネシア国外(日本等)に所在する企業グループは、グループの連結売上高が 7 億 5 千万ユーロを超える場合にインドネシアで作成・提出する必要があります。

### 実務上のポイント

- マスターファイルはグループ全体に関する概要書類であることから、通常は本社が一括して作成することが効率的となります。よって、日本の税法(連結売上 1000 億円基

準)に基づくと作成義務がない場合でもインドネシアや他国の現地子会社に作成を任せず、本社での作成を検討することが必要となります。ただし、インドネシアで求められるマスターファイルの内容として OECD モデルとの差異もあることから、本社作成したマスターファイルについて現地の専門家のレビューを経た上で提出することが望ましいとされます。

- ▶ 上述のようにインドネシアよりも低税率の国（タイ、シンガポール、ベトナム、マレーシア、台湾等）の関連者と取引を行うとマスターファイル・ローカルファイルの作成が義務化されます。ただし、文書作成は一定のコストが発生することを考慮すると、関係会社取引金額が僅少な場合は関係会社取引が是正されてしまったとしても税務上の影響が大きくない可能性があり、費用対効果の観点からは移転価格文書を作成しないことも選択肢の一つとして考えられます。また、文書作成義務があるのに対応をしていないことが判明した場合、税務調査を誘発する可能性があることから、そのような少量の取引は低税率国ではない日本の本社や、グループ外部の商社を通して実施する対応も考えられます。
- ▶ 移転価格の代表的な指標の1つとして営業利益率があり、仮に営業利益率がマイナス又は十分な水準となっていないような場合は当該状況がやむを得ない背景（設立して間もない等）を移転価格文書内に記載したり、指標を変更するなどテクニカルな対応は可能ですが、やはり継続的にそのような状態が続くと、何らかの指摘を受けるリスクは高まることとなります。そのため、長期的には移転価格文書を後付けで作成するだけでなく、現実の内部取引価格を調整し、グループ内企業への利益配分を適切にコントロールし、各構成企業の税務リスクバランスを調整していく必要があります。この調整は現地企業だけではなく日本本社の差配が必須となることから、今後の移転価格制度へのグループとしての体制構築が望まれます。



インドネシアでの海外展開に関心のある企業様は、サポートオフィスにお気軽にお声掛けください。

## ☆☆タイから便り☆☆

～「タイの地方料理の魅力」～

こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスのタイ人スタッフ、ビューです。  
皆さんは、タイ料理を食べたことがありますか？今までに食べたタイ料理のなかで、一番好きなメニューは何ですか？

タイ料理を食べたことのある方は、トムヤムクン(エビが入った辛酸っぱいスープ)、ソムタム(青パパイヤのサラダ)、ゲーンマサマン(スパイシーなイエローカレー)といった定番のメニューをご存知かと思えます。しかし、実はこれらのメニューは同じ地域のものではないことをご存知でしたか？

タイの郷土料理は、北部料理、東北料理、中部料理、南部料理の4つの地域に分類されます。今回は、それぞれの地方料理の魅力についてご紹介したいと思います。

北部地方は山岳地帯でタイの中では比較的涼しい気候のため、ストロベリーやキウイなどの栽培も盛んな地域です。ミャンマーと隣接している地域では、ミャンマーの食文化の影響を受けた料理もあります。例えば、ゲーンハンレー(ぶつ切りの豚肉と生姜などを煮込み、タマリンドで酸味を加えたカレー)や、カノムジーンナムギャオ(トマト入り汁素麺)などです。北部料理はマイルドな味で、砂糖を入れる習慣がありませんが、代わりに野菜や魚から甘味を補います。そして、白米の代わりに米を食べる習慣があります。北部の人の食事のスタイルは、丸いちゃぶ台のような「カントーク」というテーブルに料理を乗せ、家族全員が床に座って一緒に食べます。北部の代表的な都市はチェンマイで、代表的な料理はカオソーイ(カレーラーメン)、ナムプリックオーン(トマトと豚ひき肉の生野菜ディップ)、サイウア(タイ北部の豚肉ソーセージ)などです。



カオソーイ(カレーラーメン)



カノムジーンナムギャオ(トマト入り汁素麺)

東北地方はタイではイサーン地方と呼ばれています。イサーン地方は乾燥台地で、農業、もしくは畜産を行う家庭が多くを占めます。地域の主な生業たる稲作の大部分は、不安定な降水に依存する天水田で行われ、乾季に入ると収穫量は少なく、干ばつ地帯となるため、タイで最も貧困な地域と言われています。地理的に隣接したラオスの料理との共通点が多いです。例えば、プラーラーです。プラーラーは大衆の知恵で、ほとんどのイサーン料理に使われる、魚を塩漬けし醗酵させた調味料です。作物の収穫に恵まれていないため、ツムギアリやバッタなどの昆虫食が日常的に行われています。イサー

ン料理の特徴は、他の地方の料理と比べ辛味が非常に強いことです。東北地方の代表的な都市はコーンケン、ウドンタニーで、代表的なイサーン料理はソムタム(青パパイヤのサラダ)、ラープ(ひき肉サラダ)、ガイヤーン(鶏炭火焼き)です。この地域でも北部と同様に、タイ米ではなくもち米を主食とします。



ソムタム(青パパイヤのサラダ)



ラープ(ひき肉サラダ)



プラーラー (魚を塩漬けし醗酵させたもの)



竹にすむ虫-蛾の幼虫を揚げたもの

中部地域は他の地域よりも土地が肥沃です。低い山々と豊富な川など資源が多い地域で、一部の地域は海に隣接しているため様々な食材が揃います。農業や畜産など、タイの食糧生産において主要な供給源と言われています。昔から海外と貿易を行っているため、インドゥー地域からはペーストやココナッツミルクを使った料理、中国地域からは中華鍋を使って油で炒める料理などが入ってきています。アユタヤ王朝のラーマ5世時代に発展した宮廷料理(果物や野菜に花の形などの見事な彫刻を施した料理)も中部料理のひとつです。中部地方の代表的な都市はバンコクで、代表的な中部料理はトムヤムクン(エビが入った酸っぱくて辛いスープ)、グリーンカレー(ココナッツミルクを合わせた爽快な辛さのスープ)、パットアイ(米粉のやや太目の麺を使ったタイ風焼きそば)などです。中部料理は酸っぱい、しょっぱい、甘い、辛いのが絶妙なのが特徴で、細長いうち米と食べるのが一般的です。



グリーンカレー(ココナッツミルクを合わせた  
爽やかな辛さのスープ)



パッタイ (米粉麵を使ったタイ風焼きそば)

南部地域は沿岸に隣接している土地が多いため、漁業を営む人が多く、海産物が豊富に採れます。他の地域に比べて雨季が長いため、栽培される野菜も他の地域とは少し異なります。サトウ豆を使った料理は南部地域ならではのものです。南部料理は魚臭さを消すために香辛料をたくさん使われており、味が濃いのが特徴です。しかし、甘味は砂糖からではなく、ココナッツミルクから補います。また、香辛料は唐辛子だけでなく、胡椒やターメリックなどが使われることも南部料理の特徴です。他の地方の料理と比べるとひたすら辛いメニューが多いので、辛さを中和するため、南部の人は生野菜と一緒に食事をする習慣があります。代表的な都市はプーケットで、代表的な南部料理は、クアクリン(豚ひき肉激辛炒め)、カオヤム(ハーブ和えごはん)、ゲーンソム(酸味のきいたカレー)などです。



クアクリン(豚ひき肉激辛炒め)



カオヤム (ハーブ和えごはん)

タイ料理を食べる機会がありましたら、是非色々な地方のメニューにチャレンジしてみてください！

## 【展示会情報】

※別紙に、年内に開催予定のタイ・インドネシア・ベトナムの展示会情報をまとめました。  
サポートオフィスでは、現地で開催される展示会へのアテンドも行っております。  
関心のある展示会がございましたら、お気軽にご連絡ください。

### ～担当変更のご挨拶～

私、佐藤揺は、1年半にわたり島根・ビジネスサポート・オフィスの専属担当者として各種対応をさせて頂きましたが、今年4月より、担当が神谷靖子に変更となります。これまで私の記事にお付き合いくださった皆様、そして、実際にお問い合わせをくださった皆様に、心より感謝を申し上げます。島根県の皆様の、益々のご発展をお祈り致します。今後もアセアン進出に関するご相談につきましては、当オフィスをご活用頂けますと幸いです。

担当；神谷 靖子 Yasuko Kamiya

Address :1 Glas Haus Building, 12 FL., Room 1202/D, Soi Sukhumvit 25,  
Sukhumvit Rd., Klongtoey-Nua, Wattana, Bangkok 10110

Tel :+66-(0)-2-261-10588

Mobile :+66-(0)-89-200-7763

Mail : [shimane-bizsup@aapth.com](mailto:shimane-bizsup@aapth.com)

当拠点の運営法人（島根県より業務委託）

■アジア・アライアンス・パートナー・ジャパン株式会社 <http://www.aapjp.com/index.html>

タイを中心に、ベトナム・インドネシア・インドにて主に日系中堅・中小企業様のアセアン進出や進出後の会計税務法務を中心とした運営支援業務を行っております。



## ▶ タイ経済指標

項目	単位	2015	2016	2017	2018
GDP 成長率	前年比(%)	2.8	3.2	3.9	3.9(17年)
人口*	千人	67,293	67,506	67,697	67,712(1月)
労働者の数*	千人	39,165	37,792	37,716	38,422(2月)
失業率**	%	0.89	0.99	1.18	1.27(2月)
最低賃金*	バンコク	300	300	310	310(3月)
	チョンブリー	300	300	308	308(3月)
	アユタヤー	300	300	308	308(3月)
	ラヨー	300	300	308	308(3月)
賃金:全国製造業の平均	バーツ	12,305	12,402	12,473	12,687(2月)
インフレ率**	前年比(%)	▲0.90	0.19	0.67	0.55(2月)
中央銀行政策金利*	%	1.50	1.50	1.50	1.50(3月)
普通貯金率**	%	0.56	0.47	0.47	0.47(2月)
ローン金利(MLR)**	%	6.75	6.47	6.35	6.32(2月)
SET 指数*	1975年:100	1,288.0	1,542.9	1,753.71	1,776.26(3月)
バーツ/100円**	バーツ	28.31	32.53	30.27	29.13(3月)
バーツ/米ドル**	バーツ	34.25	35.30	33.9	31.5(3月)
円/米ドル**	円	121.0	108.8	112.2	109.3(2月)
車販売台数(1月からの累計)	台数	795,905	765,593	869,763	77,371(1月)
BOI 認可プロジェクト	件数	2,237	1,688	1,227	1,227(17年)
BOI 認可プロジェクト金額	10億バーツ	809.4	861.3	625.08	625.08(17年)

\*期末、\*\*平均